
前田英樹教授 | 業績一覧

1 | 単著

- 『沈黙するソーシャル』、書肆山田、1989（講談社学術文庫、2010）
- 『ソーシャル講義録注解』、法政大学出版社、1991、叢書ウニベルシタス
- 『小津安二郎の家 持続と浸透』、書肆山田、1993
- 『言語の間をぬけて』、書肆山田、1994
- 『映画=イメージの秘蹟』、青土社、1996
- 『小林秀雄』、河出書房新社、1998（『定本 小林秀雄』、同社、増補改定版、2015）
- 『セザンヌ画家のメチエ』、青土社、2000
- 『在るものの魅惑』、現代思潮社、2000、エートル叢書7
- 『倫理という力』、講談社、2001、講談社現代新書
- 『宮本武蔵『五輪書』の哲学』、岩波書店、2003（『宮本武蔵 剣と思想』、筑摩書房、改題・増補改定版、2009、ちくま文庫）
- 『絵画の二十世紀：マチスからジャコモッティまで』、日本放送出版協会、2004、NHKブックス
- 『言葉と在るものの声』、青土社、2007
- 『独学の精神』、筑摩書房、2009、ちくま新書
- 『深さ、記号』、書肆山田、2010
- 『保田與重郎を知る』、新学社、2010
- 『日本人の信仰心』、筑摩書房、2010、筑摩選書
- 『信徒 内村鑑三』、河出書房新社、2011、河出ブックス
- 『民俗と民藝』、講談社、2013、講談社選書メチエ
- 『ベルクソン哲学の遺言』、岩波書店、2013、岩波現代全書
- 『剣の法』、筑摩書房、2014
- 『小津安二郎の喜び』、講談社、2016、講談社選書メチエ

2 | 共著

- 『文法のなかの日本語』、『日本語学』、永尾章曹編、和泉書院、1992
- 『ソクーロフとの対話：魂の声、物質の夢』（アレクサンドル・ソクーロフとの対話）、児島宏子訳、

河出書房新社、1996

“Victor Erice and The Only Time”, *An Open Window: the Cinema of Victor Erice*, Linda C. Ehrlich, Lanham, Md.: Scarecrow Press, 2000 (Rev. ed 2007)

「マイナー言語というもの」、『マイノリティは創造する』、宇野邦一ほか編、せりか書房、2001

『対論・彫刻空間：物質と思考』（若林奮との対論）、書肆山田、2001

「詩、身体、感覚」、『詩歌の饗宴』、小森陽一ほか編、岩波書店、2003、岩波講座文学〈4〉

「独学の精神」、『未来コンパス：13歳からの大学授業：桐光学園特別授業3』、桐光学園中学校・高等学校編、水曜社、2010

「小津安二郎は何を語ったのか」、『日本映画は生きている 第5巻 俳優と監督の美学』、黒沢清ほか編、岩波書店、2010

「二つの読み方」、『読書のとびら』、岩波文庫編集部編、岩波書店、2011

『からだで作る〈芸〉の思想：武術と能の対話』（安田登との対話）、大修館書店、2013

『剣の思想 増補新版』（甲野善紀との往復書簡）、青土社、2013

「独学する心」、『何のために「学ぶ」のか』、桐光学園・ちくまプリマー新書編集部編、筑摩書房、2015、ちくまプリマー新書

『小栗康平コレクション1 DVD+BOOK 泥の河』（『泥の河』の視線、並びに小栗康平との対談）、駒草出版、2015

『小栗康平コレクション2 DVD+BOOK 伽椰子のために』（『伽椰子のために』の方へ、並びに小栗康平との対談）、駒草出版、2016

『小栗康平コレクション3 DVD+BOOK 死の棘』（『死の棘』の肖像、並びに小栗康平との対談）、駒草出版、2016

『小栗康平コレクション4 DVD+BOOK 眠る男』（『眠る男』の森、並びに小栗康平との対談）、駒草出版、2016

『小栗康平コレクション5 DVD+BOOK 埋もれ木』（『埋もれ木』の夢、並びに小栗康平との対談）、駒草出版、2016

3 | 雑誌論文・エッセイ等

「ソーシャルと“言語過程説”」、『月間言語』、7 (3)、50-55、1978

「言語における行為と差異——再びSAUSSUREと時枝をめぐって」、『フランス語学研究』（日本フランス語学会）通号13、56-66、1979

「ソーシャルの言語学草稿について」、『潭』、5、書肆山田、52-65、1986-04

「評 映画[動くな、死ね、蘇れ!]（ヴィターリー・カネフスキー）」、『映画芸術』、41 (2) (365)、142-143、1992-08

- 「評 映画 [マルメロの陽光] (ビクトル・エリセ)」、『映画芸術』、42 (2) (368)、56-57、1993-07
- 「実体的無意識について」、『言語哲学の地平 丸山圭三郎の世界』、加賀野井秀一・前田英樹・立川健二編、夏目書房、1993-08
- 「丸山圭三郎氏の死を悼む」、『情況・第二期』、4 (9)、165-168、1993-11
- 「〈度合の哲学〉としてのベルクソニスム」、『現代思想』、22 (11)、8-25、1994-09
- 「小林秀雄——存在への跳躍 (1)」、『批評空間・2期』、通号7、211-223、1995-10
- 「小林秀雄——存在への跳躍 (2)」、『批評空間・2期』、通号8、251-263、1996-01
- 「悟性と感性の『性質の差異』について」、『批評空間・2期』、通号9、13-16、1996-04
- 「小林秀雄——存在への跳躍 (3)」、『批評空間・2期』、通号9、204-216、1996-04
- 「小林秀雄——存在への跳躍 (4)」、『批評空間・2期』、通号10、180-192、1996-06
- 「感覚の実現 セザンヌと絵画記号」、『ユリイカ』、28 (11)、102-103、1996-09
- 「言語的粒子の連続変化」、『現代詩文庫 140 城戸朱理』、130-132、1996、思潮社
- 「小林秀雄——存在への跳躍 (5)」、『批評空間・2期』、通号11、202-214、1996-10
- 「小林秀雄——存在への跳躍 (6)」、『批評空間・2期』、通号12、190-203、1997-01
- 「小林秀雄——存在への跳躍 (7)」、『批評空間・2期』、通号13、213-225、1997-04
- 「映画評 [目撃] (クリント・イストウッド)」、『映画芸術』、47 (3) (383)、148-150、1997-07
- 「小林秀雄——存在への跳躍 (8)」、『批評空間・2期』、通号14、201-213、1997-07
- 「来るべき言語論のために——記号・質料・社会」、『現代思想』、28 (8)、139-149、2000-07
- 「刀法による〈彼我の間〉」、『日本の美学』、33、燈影舎、32-33、2001-10
- 「ソクーロフの映画を考える」、『東横短大女性文化研究所報』(東横学園女子短期大学女性文化研究所)、19、21-23、2002
- 「保田與重郎生誕百年に想う」、『文藝春秋』、88 (8)、88-90、2010-10
- 「書評 映画と哲学的思考——宇野邦一『映像身体論』」、『思想』、1044、99-102、2011-04
- 「解題・物質と記憶——身体と精神の関係についての試論」、『新訳ベルクソン全集月報2 [第二巻付録]』、白水社、6-9、2011
- 「二十二年目の答礼」、『現代思想』、40 (8) (増補)、64-71、2012-07
- 「解説『哲学講義』に寄せて」、アラン『哲学講義』、白水社、2012
- 「解題」、『丸山圭三郎著作集 (1)「ソシュールの思想」』、加賀野井秀一・前田英樹編、岩波書店、2014
- 「解題」、『丸山圭三郎著作集 (3)「言語の深層 深層の言語」』、加賀野井秀一・前田英樹編、岩波書店、2014

- 「小林秀雄の「下学」、『週刊金曜日』、第1024号、38-39、2015-01-23
- 「批評の魂（第1章）独身批評家として生きること」、『新潮』、113（1）、251-267、2016-01
- 「批評の魂（第2章）己を頭わす、ということ」、『新潮』、113（2）、197-207、2016-02
- 「批評の魂（第3章）対象を持つ、ということ（その1）」、『新潮』、113（3）、251-261、2016-03
- 「小津映画の俳優たち」、『本』、通号476、講談社、19-21、2016
- 「批評の魂（第4章）対象を持つ、ということ（その2）」、『新潮』、113（4）、233-243、2016-04
- 「批評の魂（第5章）批評は、いかにしてその言葉を得るのか」、『新潮』、113（5）、185-195、2016-05
- 「批評の魂（第6章）一身にして二生を経ること」、『新潮』、113（6）、263-273、2016-06
- 「批評の魂（第7章）紛れる事無く唯独り在る人」、『新潮』、113（7）、187-197、2016-07
- 「批評の魂（第8章）己を回顧すること」、『新潮』、113（8）、225-235、2016-08
- 「批評の魂（第9章）翻訳文学者たること」、『新潮』、113（9）、225-235、2016-09
- 「批評の魂（第10章）魂に類似^{アナロジー}を観ること」、『新潮』、113（10）、216-225、2016-10
- 「批評の魂（第11章）批評が信仰を秘めていること」、『新潮』、113（11）、282-291、2016-11
- 「批評の魂（第12章）〈士大夫の文学〉が在ること」、『新潮』、113（12）、234-243、2016-12

4 | インタビュー・対談・座談会等

- 「フランソワ・トリュフォー監督『アデルの恋の物語』アデルの恋は一途に逆巻く」（筒井武文と）、『月刊イメージフォーラム』、通巻181、28-35、1995-02
- 「討議戦後詩9吉増剛造——詩の存在論的なコギト」（野村喜和夫・城戸朱理と）、『現代詩手帖』、38（10）、84-94、1995-10
- 「共同討議 ドゥルーズと哲学」（財津理・蓮實重彦ほかと）、『批評空間. 2期』、通号9、22-54、1996-04
- 「対談 谷川雁の賢治論をめぐる——「生命のこちら側の岸边」にて」（鈴木創土と）、『文藝』、35（2）、142-153、1996-05
- 「対話 魂のイントネーション」（吉増剛造と）、『ユリイカ』、28（10）、64-79、1996-08
- 「対談 死へと開かれて——充溢/空無/イメージの襲」（小林康夫と）、『早稲田文学』、23（3）、8-26、1998-05
- 「身体の武術的転換のために」（甲野善紀と）、『越境する知 身体:よみがえる』、東京大学出版会、2000
- 「画家のメチエ、写真家のメチエ セザンヌのサントヴィクトワール山へ」（鈴木理策と）、『リトルモア』、14、116-122、2000

「討議 システム——生命論の未来」(河本英夫・佐々木正人・松野孝一郎)、『現代思想』、29 (3)、204-241、2001-02

「〈芸術〉と〈教育〉、そして〈身体〉の現在——技術体系の相対化と解体の経験から」(岡崎乾二郎・近藤譲と)、『演劇人』、12、8-39、2003

「インタビュー『感想』とは何か」、『KAWADE 夢ムック 文藝別冊 小林秀雄：はじめての/来るべき読者のために』、河出書房新社、62-77、2003

「「実の道」——武蔵と天風の哲学を語る」、『天風』、466、財団法人天風会、10-18、2004-01

「対談 ドゥルーズのマテリアリスムとは何か——死活を問う哲学」(宇野邦一と)、『KAMADE 道の手帖 ドゥルーズ：没後10年、入門のために』、河出書房新社、141-153、2005

「潜在性のマテリアリスト」、『KAMADE 道の手帖 空海：世界的思想としての密教』、河出書房新社、2006

「座談会1 吉増剛造という開かれ」、『現代詩手帖』、50 (2)、82-94、2007-02

「メルロ=ポンティか、ベルクソンか」、『KAWADE 道の手帖 メルロ=ポンティ：哲学のはじまり/はじまりの哲学』、河出書房新社、2010

「前田英樹インタビュー 宮本武蔵の剣と言説」、『iichiko: quarterly intercultural: a journal for transdisciplinary studies of pratiques』、111、6-26、2011夏

「特別インタビュー前田英樹 新陰流にみる、武術の非分離性——原理とその身体技術」、『iichiko: quarterly intercultural: a journal for transdisciplinary studies of pratiques』、112、49-92、2011秋

「対談 前田英樹×山本哲士 「西欧的なもの」の限界の根源」、『iichiko: quarterly intercultural: a journal for transdisciplinary studies of pratiques』、114、6-34、2012春

「対談 前田英樹×山本哲士 日本的なものの可能条件へ：〈もの〉の根源へ」、『iichiko: quarterly intercultural: a journal for transdisciplinary studies of pratiques』、114、35-64、2012春

「ベルクソンと遺伝子」、『明日への叢智：村上和雄いのちの対話』、村上和雄、新学社、2013

「反歴史的な志：『論語』の面白さ」、『『論語』入門：古いからこそいつも新しい思想』、河出書房新社編集部編、河出書房新社、2015

「ドストエフスキーと小林秀雄」、『ドストエフスキー：カラマーゾフの預言』、河出書房新社編集部編、河出書房新社、2016

5 | 新聞記事

「言葉を生きる：「魂の立派さ」への激しい祈願」、『読売新聞』(東京)、2004.7.3 (夕刊)

「言葉を生きる：闊達自在の師を仰ぐ」、『読売新聞』(東京)、2004.7.10 (夕刊)

「言葉を生きる：偉大な思想とは朗らかなもの」、『読売新聞』(東京)、2004.7.17 (夕刊)

「言葉を生きる：信ずべきものを信じる」、『読売新聞』(東京)、2004.7.24 (夕刊)

「言葉を生きる：身をもって経験する時間」、『読売新聞』（東京）、2004.7.31（夕刊）

「近代の肖像 危機を拓く 第637回：保田興重郎①」、『中外日報』、2014/1/16

「近代の肖像 危機を拓く 第638回：保田興重郎②」、『中外日報』、2014/1/21

「近代の肖像 危機を拓く 第639回：保田興重郎③」、『中外日報』、2014/2/13

6 | 翻訳（単独訳・共訳）

単独訳

「（翻訳・注解）ソシュール テキスト「書物」の草稿 テキストと注解」、『現代思想』、8（12）、64-83、1980、青土社

『記憶と生』、アンリ・ベルクソン、未知谷、1999（訳および解題「度合の差異としてのベルクソニスム」）

共訳

『無人島』、G. ドゥルーズ、宇野邦一、河出書房新社、2003

『ドゥルーズ・コレクション1（哲学）』、G. ドゥルーズ、宇野邦一監修、河出書房新社、2015

作成者：瀬崎元嵩・三宅隆司・関末玲・三宅一平・日高優